

# 笑顔で対話

令和6年2月

羽島市教育委員会 教育政策課

## 学びをつなぐ（幼保小）



幼児期の教育と児童期の教育を円滑につなぐことは大切なことです。教育方針や環境の違いから、変化に対応できない場合もあります。

現在羽島市では、「幼保小連携推進協議会」を定期的に開催して幼児期の教育と児童期の教育の円滑な接続のあり方について協議しています。

今回の教育委員会だよりでは、これまで審議してきたことの進捗状況をお伝えします。

「幼保小連携推進協議会」って、どんな会議なの？

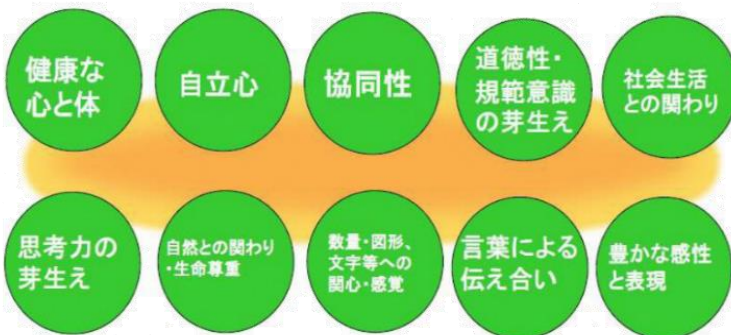
羽島市における幼保小の連携のあり方や、幼児教育のあり方について協議しています。

主に話し合っている内容

- 1 学びの連続性に配慮した幼保小連携のあり方について
- 2 生涯にわたる学びや生活の基盤を培う幼児教育のあり方について

「遊び」を通して、どんな力を育てるの？

<幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)>

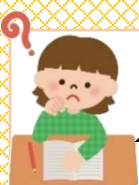


幼児教育施設（幼稚園・保育園・認定こども園）では、遊びを通して、想像力を発揮したり、仲間と協力したりしながら様々なことを学んでいきます。

そこで育成される姿は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)として示されています。

<参考：幼児教育部会による審議の取りまとめ（文部科学省）>

※ 一人一人の発達に応じて育っていきます。小学校入学までに、育てなければいけない力ではありません。



## どうして幼児教育と小学校教育のつながりが大切なの？



小学校1年生の学習は、0からのスタートではなく、幼児期の学びを生かしてスタートします。

子どもたちが自分らしさを発揮しながら、主体的に授業等に参加するためには、幼児教育を踏まえた小学校教育が鍵になります。

そのために、今年度は小学校と園がお互いの教育・保育を理解することに重点をおいて取組みを行っています。



＜小学校教員による園実習＞

※小学校教員の幼児教育への理解を深めようと、市内11園で行われました。



## 幼児教育と小学校教育をどうやってつなぐの？



＜正木小学区の職員の意見交換＞

羽島市では、架け橋期（年長から小学校1年生まで）をつなぐ「架け橋期のカリキュラム」の作成を行っています。

今後は、堀津小学校区（堀津保育園・堀津小学校）をモデル小学校区として、「架け橋期のカリキュラム」を作成し、他の小学校区に広めていく予定です。



＜堀津小学区の児童と園児の交流＞

「架け橋期のカリキュラム」には、

- ・育成したい子どもの姿
- ・発達段階に合わせた園・小学校の具体的な取組み
- ・児童や園児の交流等が明記されています。

これまでの幼保小連携推進協議会における会議資料や審議内容の詳細は、羽島市のHP (<https://www.city.hashima.lg.jp/3270.html>) で公開しております。



羽島市教育委員会 〒501-6292 羽島市竹鼻町55番地

TEL (058) 393-4611 FAX (058) 391-0906

Email : kyoiku@city.hashima.lg.jp